

③ 前後の文章や段落が途切れずにつながるようにする。【参照】 P 21～P 24
↳ 助詞(てにをは)の使い方にも配慮を

✓ ④ 文末の表現を工夫する 【参照】 P 24～P 28

↳ 文末表現(「である調」より、「ですます調」で)。同じ表現を続けないこと！

⑤ 経典や祖録から引用する場合は、現代語訳を使う

↳ 現代語訳は、自分なりに伝わりやすいように工夫を試みる

↳ 法の理解と引用が間違いないかよくよく点検すること。

⑥ 一般の書籍から引用する場合は、出典を明らかにする

⑦ 仏教語は、分かりやすい表現にする。

↳ 繰り返し表現(例、菩提心(ほとけこころ)をもって…)

↳ 仏教語を分かりやすい表現で示す

⑧ 専門用語やカタカナ語は分かりやすくし、流行語は用いない方が無難

⑨ インターネットからの引用は、充分に気をつける

⑩ 解説だけになっていないか、体験談だけになっていないか。

↳ 解説＋自分の思い 体験談＋法

⑪ 演題・氏名を除いて、六五〇字～七〇〇字に纏めること。

↳ 同じ内容の重複を避ける

↳ 用語の解説や経典の現代語訳が長すぎないように

↳ 「時候の挨拶」や「自己紹介」などは、法話の主題とつながらなければ削除する

第四章 気をつけねばいけないこと

① 他者の法話の丸写しはやめる

↳ 自分の言葉で表現する。古い法話には特に注意を

② 差別語や不快語は用いず、差別的表現にならないようにする

↳ 語る自分ともう一人の自分(冷静に客観的に見る自分、相手の立場に立つ自分)

③ 家族の呼称にも気を配る 【参照】 P 37～P 38

④ 人の名前やお店の名前などの固有名詞はできるだけ使わない

↳ 人の名前は、「仮に田中さんと呼ばせていただきます」とか

加えて

⑤ 身近な話材は特に、気を付ける。

⑥ 社会事件・時事・政治等の話材には要注意。

第六章 推敲の実際 テキストに加えて

ア、「曹洞宗を開かれた道元禅師」↳ 福井県の永平寺を開かれた道元禅師

✓ イ、消化不良をおこさないように。聴衆は、引かかるとそこから先が入ってこない

□ 例話の説明不足 □ 言葉の意味が不明確、

□ 「皆さんどう思いますか？」という問いかけで終わらないように

第七章 読み合わせをする テキストに加えて

ア、法話練習を寺族、法友、親しい檀信徒に聞いてもらう

イ、本尊様を背にして、檀家の方が前におられると思って話してみる。

ウ、語尾をハッキリと伝えること。活舌をよくすること。籠らないように話す。

エ、鏡に向かって話すと、口の開き方がわかる。

オ、年配の人に生きる活力を与えられるように、元氣よく話すこと。

* 僧侶に話すのではない。対象はあくまで、一般の方。